

**川路利良** 警察官僚。警視庁はじめ近代警察行政の確立者。

かわじとしよし

高島砲術・・1834 = 鹿兒島城下の北、吉野村(鹿兒島市吉野町)で、鹿兒島藩与力組の長子に生まれ、

のち城下薬師町に移り住んだ。

**大塩平八郎乱**1837 = 3歳 :

順天堂始・・1843 = **9歳** :

**阿部正弘首座**1845 = 11歳 :

**万次郎帰国**・1852 = **18歳** :

**ペリー来航**・1853 = 19歳 :

**桜田門外変**・1860 = 26歳 :

**遣欧使節**・・1861 = **27歳** :

禁門の変・・1864 = 30歳 : **禁門の変にあたって西郷隆盛に知られ、**

**明治維新**・・1868 = 34歳 : **鳥羽・伏見の戦に功をたて、さらに彰義隊の鎮圧にあたる。**

戊辰戦争終・1869 = 35歳 : 鹿兒島藩兵具奉行となった。

初の日刊新聞1870 = **36歳** :

廃藩置県・・1871 = 37歳 : 東京府大属となり、

学問のすすめ1872 = 38歳 : 邏卒総長に任ぜられ、**\*司法省に警察が設置された際、警保助兼大警視となり、西郷隆盛の推薦により、ヨーロッパ各国の警察制度調査のため渡欧、**

**明治6年政変** 1873 = 39歳 : **帰国。その見聞に基づいて、司法権と行政権の分離、ならびに警察権の伸長の必要性を力説。**

佐賀の乱・・1874 = 40歳 : **\*東京警視庁が設置されると大警視となり、鋭意警察制度の改革にあたり、消防制度の整備をも行なう。**

**西南戦争**・・1877 = 43歳 : **東京警視庁が廃止され、管掌の事務は内閣省所管となり、同省警保局を併合して警視局が設けられたが、引きつづき大警視として在任、西南戦争がおこると陸軍少将兼任となり、征討別働第3旅団司令長官に任ぜられ、警視隊を率いて奮戦。戦後、同司令長官を免ぜられ、引き続き警察制度の整備につとめ、**

琉球処分・・1879 = **45歳** : **\*再び海外警察制度および監獄(刑務所)制度視察のため渡欧したが、病を得て急速帰国し、没した。**